

事業報告書 (平成30年度)

事業名 岡山市立岡山後楽館高校生によるトンボの森づくり体験と環境学習

団体名 岡山市立岡山後楽館高等学校 担当者名 柴田美智子

※活動の様子がわかる写真(データもお願いします)と説明を必ず添付してください。

1. 活動内容(日時、場所、参加対象者、人数、内容等)

1. 「トンボの森づくり体験と環境学習」

平成30年6月27日(水) 15:45~17:30 岡山後楽館高等学校 1・2・3年次生 11名参加

「事前指導」 講師 小桐 登 様

- ・今回の事業内容の説明(昨年の実施報告書「トンボの森づくり体験」を使用)
- ・森の機能や役割について(冊子「まにわのわ」と講師作成のプレゼンテーション資料を使用)
- ・森の整備の必要性について
- ・化石燃料に頼らない、自然資本を生かした経済の循環や自然の範囲の中で生活する日本人の知恵の伝承や新しいライフスタイルについて
- ・マイクロプラスチック問題について

平成30年7月14日(土) 8:00~18:00

トンボの森、津黒高原荘など 1・2・3年次生 12名参加

「トンボの森づくり体験と環境学習」

講師 小桐 登 様 和田 厚志 様

① オリエンテーション

- ・真庭トンボの森づくり活動の説明(目的、関係団体、活動の経緯、森の変化など)
- ・森の作業の注意と作業方法の説明、準備運動、身支度

② 移動、講義、作業

- ・移動しながら森の整備状況の説明
- ・森の機能を考える
- ・森の役割と日本人の暮らしの関わり方の変遷の説明
(かつては、山菜やキノコなどを食物として利用したり、木を伐採して薪として利用していたが、現在は森の中にあるものを使わなくなった。このような生活スタイルの変化が森に与えた影響と今後について)

③ 森の作業

- ・笹刈り、除伐木の運搬作業
- ・間伐木(ひのき)の皮むき体験



森の役割に関する講義



伐採木の皮むき体験



笹刈り

④ 森を楽しむプログラム

- ・森の散策 (ネイチャーゲーム)
- ・ハンモック体験

⑤ 薪ボイラーの見学

⑥ 感想、振り返り



ハンモック体験



ネイチャーゲーム

平成 30 年 7 月 19 日(木) 15:45~16:30 岡山後楽館高等学校

1・2・3 年次生 12 名参加

「事後指導」 講師 小桐 登 様

- ・体験を通して、気づいたことや学んだことの振り返り
- ・課題や問題だと感じたこと
- ・体験によって感じた事をもとに、自分たちに出来ることは何か

以上 3 点についてグループで話し合い、情報を共有した。



薪ボイラー

2. 「西川水族館」

平成 30 年 5 月 27 日(日) 11:00~16:00 西川緑道公園

1~3 年次生 9 名参加

平成 30 年 7 月 22 日(日) 11:00~16:00 西川緑道公園

1・2 年次生 3 名参加

平成 30 年 9 月 16 日(日)、17 日(月) 10:00~16:00 就実大学

1~3 年次生 7 名参加



西川水族館



- ・山川海のつながりを学んだ生徒が「西川水族館」を実施し、図鑑の配布も行った。
- ・たくさんの方に関心をもってみていただき、川の環境を守ることの大切さを伝えた。

2. ESDの視点を取り入れたところ、ESDの視点で見直したところ
<ul style="list-style-type: none">・「トンボの森づくり体験と環境学習」を岡山後楽館高等学校の「まちなかのふるさと教育」の一貫の活動とすることで、年1回だけ実施する活動に終わらせず、西川や瀬戸内海の環境についてもさらに学びを深める。・山川海のつながりをしっかり理解した生徒が、西川の清掃活動以外に西川の環境保全活動の1つとして「西川水族館」を実施し、SDGsの視点を取り入れて川の環境を守ることの大切さをこれからも多くの人に伝えていく。
3. 取組の成果（参加者にどのような意識や行動の教育上の成果があったか。感想など）
<ul style="list-style-type: none">・森づくりを学んだ一部の生徒が、川や海についても学びを深め、岡山市主催の西川緑道公園周辺で行われる歩行者天国や就実大学で開催されたキッズタウン SHUJITSU2018で「西川水族館」を実施し、市民の皆さんに西川の自然の豊かさやゴミの問題、森の役割や川や海とのつながりについて情報発信を行い、環境を守る大切さを伝えた。・実際に森に入り、街の中との空気感の違いを肌で感じ、笹刈りや間伐木の皮むきを体験して森を整備することの大変さや必要性を感じた生徒が多い。・さまざまな活動に参加することで、自己肯定感が高まった生徒や、「ふるさと」としての岡山や西川の魅力を発見し、関心を強めた生徒が増加した。・生徒の感想 「人間には『水・空気・食べ物』の3つが、生きるために必要で、この3つは森林などの自然がないとえられないことを学んだ。しかし、都会へ移住する人が増加し、森林を手入れする人が減少している現状が分かった。林業の魅力を周囲に伝え、林業に関わる人口を増やすとともに、人と自然との共存を図ることが今の世の中には必要だと感じた。」 「森全体の7割が広葉樹、3割が針葉樹でできているので、今回の大雨でも土砂災害の被害はなかった。針葉樹が多くなると土砂災害が多くなるので、広葉樹と針葉樹のバランスが大切だと分かった。」 「森の中に生えているクロモジでアロマオイルを作り商品化することや間伐材を燃料として利用することで、地域経済の循環につながればいいなと思った。」
4. 今後の課題と展望
<ul style="list-style-type: none">・山川里海のつながりを知る学習プログラムをブラッシュアップして、今後の活動に参加する生徒を増やしていく必要がある。・NPOと協働して事業を進めたり、同じような取組を行っている学校と交流し、さらに見識を拡大していくとともに活動内容の見直しを行う。・参加生徒から環境問題について考えるよい活動であるため継続してほしいという意見が多く、今後も「森づくり体験と環境学習」の活動を継続できるよう、生徒負担を軽減するためにも助成金などを申請する。